

～6弱の揺れが発生し、大阪湾付近には110分後に、5mの津波が到達すると予測されている。

この中で、大阪市域の津波浸水想定区域が右図に示す内容で公表された。この中で、青色の矢印は、状況によりさらに浸水域が広がることあり得ることを示している。



2-5. 地区特性のまとめと防災課題

(1) 避難場所の安全性(水害)

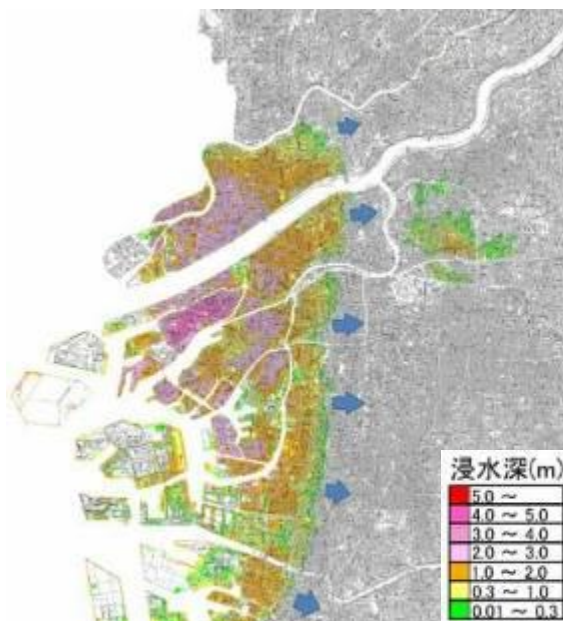
淀川の外水氾濫時には本地域一帯は深い浸水に見舞われることが予測されている。本地域の収容避難所は、小松小学校、大阪高校、大阪成蹊大学短大があり、各々の校舎の1階まで浸水する予測である。

一方で、本地域には低層住宅が多くみられるが、洪水時に避難に遅れた人らは、浸水しない避難空間に避難することが求められる。

このため、地域に立地する中高層建物の3階建以上に一時避難する「垂直避難」を検討する必要がある。

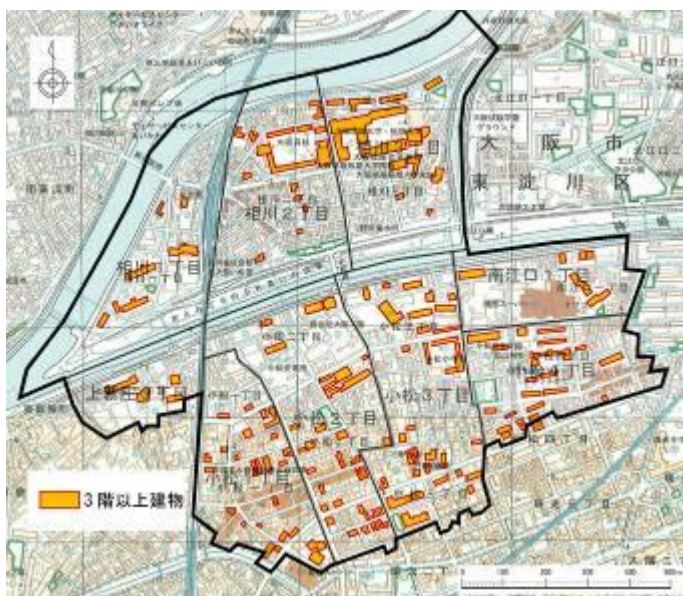
今回検討する3階建以上の建物はあくまで避難候補建物であって、所有者・管理者等の同意が得られていない段階での、図上での候補を示している。これらの同意がないと地域住民に一時避難先と位置づけるこ

図 津波浸水予想区域図



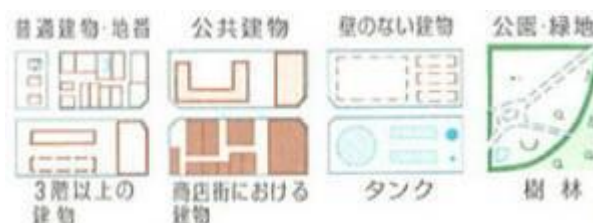
資料) 大阪府

図 3階以上の建物分布図



作図) ランドシステム研究所、岡本

図 1/10000 地形図凡例(一部)



資料) 国土地理院

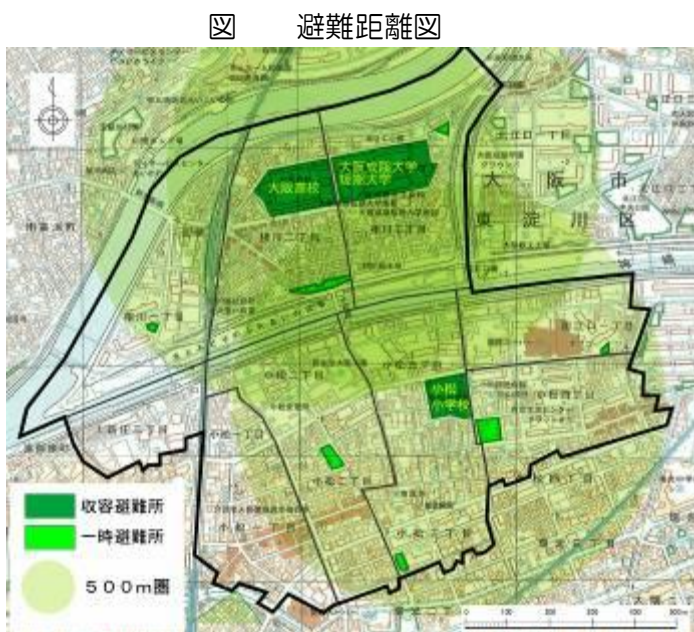
とはできないが、地域協働による共助の取組みとして、平野部の市街地における洪水時での有効な避難方法として考えられている。

なお、本調査での3階以上の建物の分布は、国土地理院、1/10000 地形図、2006年発行の「十三」「新大阪」「吹田」(現時点での最新版)の一部より判読した。

(2) 避難距離

避難所への避難距離は、一般に、老人、子供の歩行等を考慮して、500mを標準と定められている。本地域の避難距離をみると、西部の一部を除いてほぼ全域が500m内の区域に含まれる。

実際の道路分布を考慮すれば、500m圏はさらに狭い区域となることが考えられるが、概ねの目安から、遠距離避難区域を検討した。



注) 円の半径は500m

作図) ランドシステム研究所、岡本

(3) 防災上の課題(地域特性からみた)

これまでみてきた、防災に関わる地域特性から課題を整理した。

① 高齢化地区

高齢者の人口比率をもとに、特に高齢者比率の高いまちを取り上げた。本地域では、相川1・3丁目が高齢率が高い地区である。

この地区などにおいては、避難時に高齢者の避難を支援する取組みが不可欠である。

② 過密市街地

木造低層住宅、狭隘道路、広場空間の少ないまち等、過密市街地が、小松3丁目、相川1・2丁目などにみられる。

これらの市街地では、地震時に安全な避難路が確保できなかったり、火災による延焼など、被害が拡大することが予想される。



③ 浸水深の大きな地区

外水氾濫時に浸水深が3m以上となる区域では、木造2階建て住宅や中高層住宅の低層階が浸水することが予想される。

特に浸水深の大きな地区として、浸水深が3m以上となる、北部の相川2，3丁目にかけての区域をとりあげた。

④遠距離避難地区

避難所への避難距離が標準とされる500mより遠い地区を遠距離避難地区としてとりあげた。

今回は、概略の避難距離をみたもので、実際の道路事情や災害時の道路閉塞などを考慮すれば、さらに遠距離避難地区が拡大すると考えられる。これらの地区では、早めの避難行動が重要であるが、避難が遅れた場合での最寄りの一時避難場所等を検討しておく必要がある。

⑤3階以上の建物の少ない地区

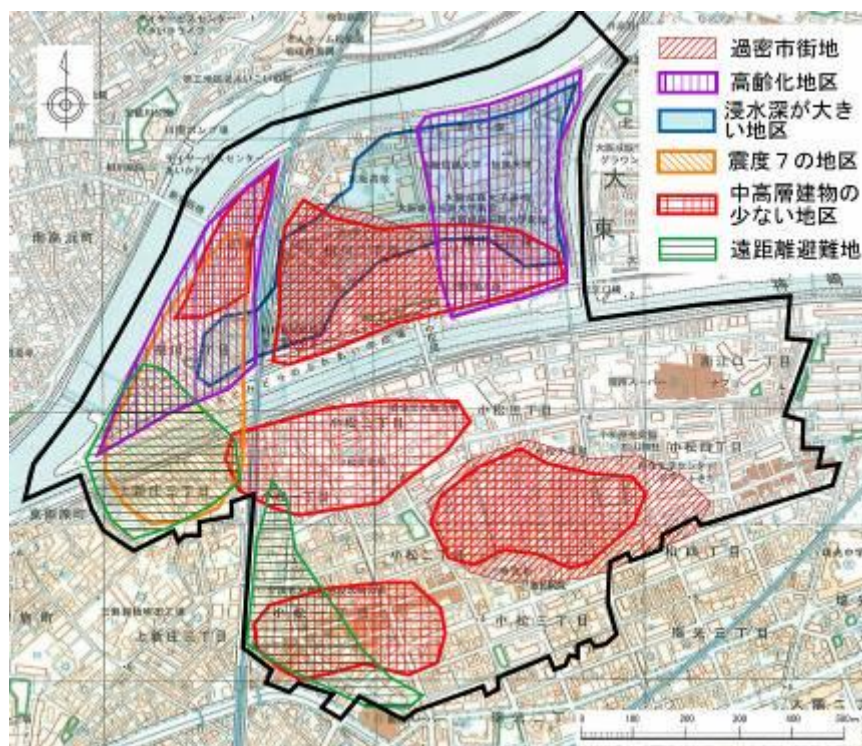
洪水時の避難先を3階以上の中高層建物と想定した際に、避難候補の対象となる建物が少ない地域にあっては、当該地区外に避難先を見いだす必要がある。特に中高層建物の少ない町として小松2，3丁目、相川1，2丁目などがあり、候補となる垂直避難先の建物の少ないまちをとりあげた。

⑥地域の総合的防災課題

これまでの課題を1枚の図面に集約したものが、総合的防災課題図である。この図に表示している事項以外にも、行き止まり道路の多い地区など様々な防災上の課題の地域があるが、ここでは、煩雑さを避けて基本的な事項の表示に留めた。

この結果、本地域にはいずれの地区にも課題があり、図示するように課題の多くは重なっている。

図 総合防災課題図



作図) ランドシステム研究所、岡本

3.地域の防災・減災の基本的考え方

東淀川区の自然環境やまちの地域特性等を踏まえ、「自分の命は自分で守る」自助を基本とし、共助による「地域の防災力の向上」を進めて、「災害に強いまち」をめざして、本地域の防災の取組みの基本的考え方を以下のように設定する。

■地域防災の基本理念

『淀川や神崎川など地域の自然と共存する安全・安心なまちをめざす』

◆防災・減災の基本方向



◆水と共存するまち

- ・淀川や神崎川・安威川とふれあえる水辺の憩いのある、安全・安心なまちをめざす
- ・地区の自然環境を理解し、これを活かした防災・減災を心がける
- ・区民が積極的に防災・減災に取組み、被害を積極的に低減する活動を展開する

◆災害特性を知るまち

- ・土地の高さや地盤の揺れやすさなどの災害に関わる自然環境を理解する
- ・高齢化地区や過密市街地などの災害時の弱点を知り、これらの課題を克服する取組み
- ・様々な災害特性、地区特性を反映した防災マップの作成・充実・更新を進める

◆安全・安心のあるまち

- ・水害にも地震にも強い安全・安心なまち
- ・区民や行政・教育機関・企業などの連携・協力による、安心なまち
- ・防災情報や防災訓練など、地域連携を通じた、地域防災力の高いまち



◆わが町の防災・減災の基本方針

- ・自分の命は自分で守り助ける人になろう！
- ・高い防災意識を持った住民をはぐくむ小松のまちづくり